

2018年5月15日から2018年12月28日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



- | | |
|-----------------|-----------|
| ●森田 京子 様 | ●大坪 修介 様 |
| ●岡本 康裕 様 | ●大坪 喜代子 様 |
| ●莊氣横山 様 | ●伊地知 修 様 |
| ●上野 健太郎 様 | ●石川 篤子 様 |
| ●上野 さやか 様 | ●中間 みゆき 様 |
| ●上野 凌太 様 | ●福川 勉功 様 |
| ●上野 太美夫 様 | ●福川 みずほ 様 |
| ●黒崎 沙安 様 | ●河野 嘉文 様 |
| ●割烹 石庵 様 | |
| ●奥 章三 様 | |
| ●鮫島 信一 様 | |
| ●鹿児島南ロータリークラブ 様 | |



認定NPO法人発足に伴う変更事項

一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

■一般寄付
 本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。
 現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費.....12,000円

■法人賛助会員：年会費.....120,000円

■募金箱
 募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。
 本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。
 入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。ボランティアの方々によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月から認定NPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内
 電話：099-275-5354

認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束 皆様からお預かりした個人情報
 ・会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。
 ・ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

会員の方々と事務局を結ぶ.....

こねっと通信

2019.winter.VOL.20



- ファミリーハウス
- 健康相談会
- 子ども救急箱
- その他

Save the Children
 私達は離島・へき地の
 難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と
 快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
 子ども医療ネットワーク



理事長通信



こねつと通信 Vol.20をお届けいたします。皆様のご理解とご協力により感謝申し上げます。皆様のご理解とご協力により感謝申し上げます。

2018年を象徴する漢字として「災」が選ばれたように、地震や水害が数多くありました。年が明けて1月3日にも熊本で地震がありました。夕刻から九州新幹線が運休したため、正月休みを故郷で過ごした方の移動に影響が出たようです。幸いにも被害が少なかつたようで安心しました。皆様の2019年が良い年になりますようにお祈り申し上げます。

ファミリーハウスをご利用いただいている皆様の利用者ノートを拝見し、お子さんと一緒に病気に立ち向かっている皆様の様子を伺えました。限られた経費と時間で行える活動は多くはないのですが、ファミリーハウスを利用していたらできる活動は多いのですが、小さいながらも私どもの活動の意義を感じさせていたいておられます。部屋を提供していただいている宮下さん、実際に運営を担当していただいている中間さんに改めて感謝申し上げます。今期もよろしくお申し込み申し上げます。

ファミリーハウス 「利用者ノート」の声

鹿児島市で長期入院する離島やき地の子とご家族のための宿泊施設ファミリーハウス。基本的な電化製品・台所用用品・寝具等のご用意があります。人数問わず泊り干円でご利用できます。部屋のノートには利用者の感謝の声がつけられています。

今回初めて利用させて頂きました。予定日よりまだ早く産まれた娘のそばにいたくて家族3人で長期の利用をさせていただき、とても助かりました。息子はこが気に入ったようで、鹿児島のおうちと楽しく過ごしていました。娘も無事退院となり一緒に帰ることができました。皆さんのお子さんの病氣も早く良くなりますように。そして家族みんな笑顔で過ごせますように。本当にありがとうございます。(種子島より)

子どもも面会に来ました。今までは、ホテルを利用していましたが、なかなかホテルがとれず泊という長い期間もあり、ファミリーハウスを利用させてもらいました。日常生活に必要なものがそろっていたため、本当に助かりました。また、機会があれば、利用させて頂きたいと思っております。ありがとうございます。

娘が1月に産まれてから、ずっと鹿児島大病院に入院しています。自宅は名瀬なので、娘に会いに来るのも大変です。このような場所を提供して頂きほんとうに助かりました。また、退院のめどは立っていないので、今後も利用させていただくと思っております。よろしくお願いたします。このノートを読んで同じような思いをしている方々がたくさんいると分かり、とても励みになります。ありがとうございます。

子供が急に心不全になり、宮崎からドクターヘリでこちらに運んでいただきました。右も左も知らない土地です。病棟の控室生活なので不安になっていました。こちらを利用させて頂いていただき本当に助かりました。お風呂などもお湯をためてゆつくり入れたので二日の疲れがとれて子どもの前で笑顔になれる手助けになってくれています。このような場をたった千円という良心的な価格で提供していただき、お金がかかる入院でも助かります。本当にありがとうございます。子どもが二日でも早く元気になって目を覚ますことを願っています。

日本中が大変な大雨で、屋久島より来ました。娘が2ヶ月の長期入院となり毎週通っていましたが、お金がいくらあっても足りないと思っていたところ、友人がファミリーハウスのことを調べて教えてくれました。本当に有難いことです。皆さん離島から様々な思いを抱えてここで寝泊まりされているのかと思うと、人生いろいろありますね。山あり谷あり。お母ちゃん、頑張ります！

ドクターヘリで身一つで奄美より来たので、本当に助かりました。帝王切開でも6日間で退院と聞き、おっぱいの不安と傷の痛みで困っているところでした。530gと小さいので長期戦になるかと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

こども救急箱

《早起き早寝》 —生活の乱れが悪影響—

こども医療ネットワーク理事長
河野 嘉文
(鹿児島大学病院小児診療センター)

2018年11月6日
南日本新聞掲載

早寝早起きの習慣が大切と言われてきました。適切な睡眠習慣を身につけることが重要で、学会などでも子どもの睡眠について議論されています。生活習慣の乱れが気力や体力、学業成績にも影響を及ぼすという多くのデータが示され、文部科学省による2006年からの「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進につながったと思います。

乱れの原因が会員制交流サイト(SNS)にあるとする意見も多く、その浸透力の強さに社会全体で抵抗できない状況です。それもあって最近では子どもの睡眠の重要性が特に注目されるようになってきました。

昔から「寝る子は育つ」と言われ、適切な睡眠によって成長に必要なホルモン分泌が促進されることも証明されています。朝の光を浴びることで脳内ホルモンのセロトニンが活発に分泌され、集中力のある活動を推進します。

小児科を受診する患者で最も多いのは、発熱、鼻水、せきなどの風邪症状です。子どもが熱を出し、ぐったりしていると、家族はとても心配することだと思います。家族から心配なので抗生剤(抗生物質)をもらえませんか? 気管支炎や肺炎にならないように、予防的に抗生剤をください」という申し出があります。

風邪の病原菌は、主にウイルスと細菌に分けられます。鼻、のど、気管など気道の感染症が多いですが、嘔吐、下痢などの胃腸炎を引き起こすこともあります。風邪の約90%がウイルスが原因です。抗生剤は細菌には効果がありますが、ウイルスには効果がありません。抗生剤は副作用として、下痢や薬疹、肝機能障害が出ることもあります。

不必要な抗生剤使用は、抗生剤に抵抗性を持つ薬剤耐性菌を増やし、それによる感染症の増加が国際的に問題となつてきました。米国では、処方された抗生剤の約30%が不必要だったとの報告もあり、日本でも抗生剤の不必要な使用が一定の割合であると推測されています。

しかし、新生児期や乳幼児期の感染症(インフルエンザ菌、肺炎球菌、A群溶連菌など)、学童期に多いマイコプラズマ感染症では、抗生剤が必要になる場合もあります。小児科医は症状と、診察、検査結果から抗生剤が必要かどうかを判断しています。抗生剤が必要な状況が減らすことも重要です。手洗い(流水と石けんで丁寧に)、予防接種、せきエチケット(マスクの着用やせき、くしゃみの際に口と鼻を覆い、顔を他の人に向けていない)、うがいなど、普段から感染の予防を心がけることが大事です。

こども救急箱

《風邪と抗菌薬》 —最近由来の症状に処方—

こども医療ネットワーク会員
上野 健太郎
(鹿児島大学病院小児診療センター)

2018年8月7日
南日本新聞掲載

不必要な抗生剤使用は、抗生剤に抵抗性を持つ薬剤耐性菌を増やし、それによる感染症の増加が国際的に問題となつてきました。米国では、処方された抗生剤の約30%が不必要だったとの報告もあり、日本でも抗生剤の不必要な使用が一定の割合であると推測されています。

「こねつと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。《宛先》〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター 小児科内 「こねつと通信」係 E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

「こねつと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。上記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで 〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねつと通信」係